

沼の魚たちはどこから来たの？



本文中に出てくる
沼・貯水池の位置（石狩市域図）

市内の所々に分布する沼や貯水池。周囲に草木が茂り、遠目ではわかりませんが、緑苑台の発寒川沿いの沼（地図上①）、五の沢の農業用貯水池（同②）、石狩浜の石狩斎場裏の沼（同③）など、地図上でも確認できます。

これらは人為的にできた沼、貯水池ですが、果たして魚が生息するのか、網を入れて調べてみました。その結果、緑苑台の発寒川沿いの沼ではイバラトミヨ、五の沢貯水池ではヨシノボリ（ともに石狩自然誌研究会巡検調査にて確認）、石狩

浜の石狩斎場裏の沼ではドジョウが確認されました。これらの魚は、茨戸川はじめ、石狩平野の河川湖沼では普通に見られる種です（捕らえた種以外にも生息する可能性は十分あります）。

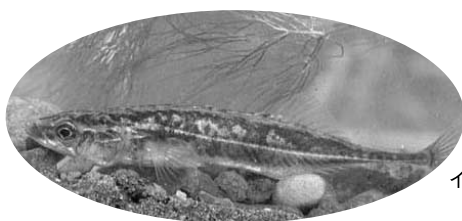
しかし、人工的にできた沼や貯水池に、どのようにして魚が生息するようになったのでしょうか。

緑苑台の沼は、昔の地図をたどると、川とつながっていたことがわかります。

沼に生息するイバラトミヨは、そのころ川に生息していたものが、河川改修により分断された時に取り残されたものと考えられます。

五の沢貯水池は、水田へ水を供給する農業用ダムです。水の放出口は、高いコンクリート壁になっていて、魚が下流の用水路から遡上（さくしょう）してきても、上れるものではありません。ところが、ヨシノボリは、胸鰭（むなびれ）が吸盤（すくみ）のようになっているの

で、この吸盤でコンクリートの壁にくっつくことができます。こうして下流の川から貯水池まで上つて来ることができたのでは、と想像できます。



イバラトミヨ



ヨシノボリ



ドジョウ

※いずれの場所も危険ですので
むやみに立ち入らないでください

併せてご覧ください

緑苑台の沼については、広報（平成16年10月号）いしかり博物誌第59回でも紹介しています。

http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/hakubutushi/ha_059.htm

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

（内藤華子）